令和5年度　学校評価計画　　川北町立橋小学校

	評価項目と具体的取組	主担当部	評価指標	達成度判断基準	備考	取組状況	改善に向けて
Ⅰ 組織的な学校運営	**【学校教育ビジョンの具現化】** 学校運営委員会や校務委員会と職員会議を密接に連携させ、学校教育ビジョンのもと、チーム学校を常に意識し、組織的主体的に学校運営に参画する。	**総務部**	**【満足度指標】** 学校教育ビジョンを意識しながら、それを実現するために組織的主体的に学校運営に参画している	組織的主体的に学校運営に参画していると回答する職員の割合が A　９０％以上 (あてはまる＜どちらか の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 教員アンケート	A(100%) 全ての職員が肯定的な回答をしている。 今年度の学校ビジョンを意識しながら、学校全体で目的・目標を共有し様々な取組を進めることができた。学力向上ロードマップに位置づけられていることを運営委員会で確認していたが、前もって見通しをもって進めていく必要があった。	来年度の学力向上ロードマップの中には、取組までの準備段階の予定も入れておく。校務委員会で、各分掌ごとに詳細な予定や仕事内容などを書き込めるロードマップクローズアップ版を来年度、導入し、各分掌で「いつ、だれが、どこまでするか」まで確認する。
	【働き方改革】 業務の役割分担の適正化と組織的協働的な学校運営に努め、ワークライフバランスを大切にする。	**総務部**	**【満足度指標】** 職員は「ワークライフバランス」を大切にし，充実感を持って職務の遂行に努めている。	ワークライフバランスを大切にし、充実感を持って教育に当たっている。と回答する職員の割合が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 教員アンケート	A(100%) 全ての職員が肯定的な回答をしている。 最終退校時間をほとんどの職員が守って勤務している。空き時間や放課後の時間を有効に使って仕事をしている。今回のアンケートで「どんなときに働きがいややりがいを感じるか」を記述で回答したが、全ての職員が子どもたちの成長やがんばりにやりがいや喜びを感じていた。	「子どもたちの成長」から教師はやりがいや働きがいを感じている。子どもたちが生き生きと自分たちで動き出し、学ぶ喜びや成長を実感できるよう、授業改善や指導改善を充実していく。
Ⅱ 確かな学力の育成	**【学力向上】** 基礎学力向上計画・学力向上プランの共通実践や児童に達成感を持たせられるようにするための授業改善に努め、基礎的基本的学力の向上を図る。	**教務部**	**【成果指標】** 取組の結果、基礎学力が向上している。	ぱっちり算数の合格者の割合が75%以上であった学年が A　全学年 B　５つの学年 C　４つの学年 D　３つの学年以下	7月12月2月 ぱっちり算数の合格者の割合	C（4つの学年） ぱっちり算数週間を設け、学年に応じた形で学期末の基礎学力の定着を図った。図形に関しては、ぱっちり算数週間以外のぱっちりタイムでも活用問題に取り組む機会を設けたことで、定着を図ることができた部分もあったが、学年によってはその他の単元での達成率に差があり、全学年の達成に至らなかった。	活用問題を取り入れた授業設計の視点が必要であるとともに、達成が不十分であった単元においては、改めてぱっちりタイムなどを活用しながら補充していく必要がある。ぱっちりタイムでは、今後も図形を中心に活用問題を実施していく予定であるが、計算等の基礎的な部分においても、各学年に応じて定着を図るために、繰り返しの練習を行っていく。また、次年度は、定期的にぱっちりタイムの取り組み方や内容について学年間で情報交流を行っていく。
	【自ら学び、考え、ともに高め合う子の育成】 課題解決への目的意識や必要感を持たせられる学習課題づくりと、その解決に向け、子供が自己決定しながら学習活動を展開できる授業づくりを推進し、児童の自己肯定感の向上と教師の指導力の向上を図る。	**教育推進部**	**【満足度指標】** 児童が授業の中で、自分の成長を感じている。	授業の中で自分の成長を感じている児童の割合が A　　９０％以上 B　　８０％以上 C　　７０％以上 D　　７０％未満	5.月7月12月 児童アンケート	A(93.4%) 「学ポジカード」を使って学習を行うことで、自分の学びの状況や友達の学びの状況を確かめながら交流の必要性を判断して学習に取り組むことができた。また、単元の初めに一人学習の時間を設けることで、全文の概観を捉えて学習を始めることができた。	児童がより成長を感じることができるように、教員間で互いに教材研究を行う時間を設けていきたい。また、個別最適・協働的な学びを深めていけるように児童への支援の仕方や教師の手立てについても教員同士で研究を進めていきたい。
	【読書活動の充実】 図書館司書と連携し、毎月おすすめの本の達成状況を知らせ、振り返ることで、主体的な読書活動に向けたしかけの工夫を図る。	**教務部（図書担当）**	**【成果指標】** 学年のおすすめの本を読むことが出来ている。 （１・２年２０冊、 ３年１５冊、 ４～６年１０冊）	学年の「おすすめの本」を読み終えた児童の割合が A　９５％以上 B　８５％以上 C　７５％以上 D　７５％未満	おすすめの本の冊数 **7月**（2年7冊、1・3年5冊、4～6年4冊） **12月**（1・2年14冊、3年10冊、4～6年7冊） **2月**（1・2年20冊、3年15冊、4～6年　10冊）	B(89.0%) オススメの本、2学期の達成率は、89.0%。 図書館司書による読書環境作り、教職員の働きかけの効果もあり、児童は進んで読書をしている。特に低学年の達成状況は95%以上になっているが、高学年には、読書意欲が高められず、おすすめの本の達成状況や図書館利用の状況が伸びない児童もいる。	読書への関心の低い児童がおすすめの本を読んだり図書館利用をしたりするように、日々の担任による声かけだけでなく、教師、図書委員によるおすすめの本の読み聞かせを行っていく。また読書旬間に「おすすめの本」の紹介カードづくり等の取り組みを行うことで、おすすめの本を読み進められるようにしていく。また、国語の授業とつなげた並行読書の活動は適宜行っていく。
Ⅲ 豊かな人間性の育成	**【みんなが安心できる楽しい学校づくり】** 学校が安心でき、楽しいと感じられるよう、生徒指導の４つの視点を意識した授業や行事で、児童を認め価値付ける。	**生徒指導部**	**【満足度指標】** 児童が、楽しく学校生活を送っている。	「学校は楽しい」と回答した児童が, A　９０％以上 (あてはまる＜どちらかというとあてはまる の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 児童アンケート	B(89.1%) 「あてはまる」と回答した児童の割合が、前期より8%増加した。学習の中では、共感的な人間関係を育むために、ペアやグループで関わりながら学習することを行った。行事の中では、児童に活動の途中や事後に認める声かけを行い、価値付けた。また、教員間で児童の様子の情報交換を行うことで、成長を促したり見届けたりすることができた。	学習や行事の中で、児童自身が進め方を決めたり、友達と関わりながら活動することで、より一層楽しいと思う機会が増えると考えられる。そのため、教師は児童に委ねる場面を設定したり、関わりのパイプ役となったりして、楽しいと感じられる時間を増やしていきたい。
	【道徳教育の推進】 児童が自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深められるよう、道徳の時間を要として、構造的な板書や発問などの工夫をし、道徳教育の充実を図る。	**保健安全・体育部（道徳教育推進）**	**【満足度指標】** 児童は、自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深めている。	「自分の思いや考えをもち、友達と話し合うことができた」と感じている児童の割合が, A　９０％以上 （いつもした＜時々　の場合はB） B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月2月 道徳アンケート	B 「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答した児童が、87．6%だった。板書の写真を教室に掲示し、振り返る機会を設けたり、教師から折に触れて価値づける声かけをしたりできた。GIGAタブレットを活用して、自分の立場や思いを表現することができた。	児童が自分の思いや考えをもち、友達と議論しながら考えを深められるよう、より一層構造的な板書や発問などの工夫をする。全体の場での発言だけでなく、ペアやグループでの発言をすることや、書くことによる表現があるなど、自分の思いを表現する方法が多様にあることを職員・児童の共通理解を図り、授業で取り入れられるようにしていく。
	【児童の自主性・主体性の育成】 よりよい学校・学級づくりに向けて、委員会、学級会活動、学校行事等に自主性・主体性をもって取り組める児童の育成に努める。	**生徒指導部**	**【満足度指標】** 児童会、委員会、学級活動等において、児童はよりよい学校・学級づくりに進んで取り組めたと感じている。	行事や学校、学級の活動に進んで取り組めたと感じている児童の割合が, A　９０％以上 (但しあてはまる＜どちらかというとあてはまるの場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 児童アンケート	B(94.9%)※どちらかというとあてはまるの回答が多かったため 生活目標について、クラスでの目標を決め取り組んだことや、行事おけるめあてを達成したかをふり返る中で、教師が児童の姿を認め、価値付けている。	児童は、任されたことを真面目に取り組もうとする一方で、自分から進んで何か行動を起こそうとすることが少ない。見通しを立て行動に移すことが難しいのではないかと考えられるので、計画段階で児童自身が見通しを持てるようにサポートしたりどんな姿がいいのかを考えさせたりしていく。
Ⅳ 健やか身体の育成	**【体力の向上】** 体育の授業や児童の活動を主とした「体力作り１校１プラン」、「スポチャレ」の取組を通して体力の向上を図る。	**保健安全・体育部**	**【成果指標】** 11月でのミニ体力テストにおいて、20mシャトルランの記録が、５月の記録を上回る。	11月でのミニ体力テストにおいて、20mシャトルランの記録が、５月の記録を上回る児童（４～６年生）が A　９０％以上 B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	11月 ミニ体力テスト	C(71%) 11月のミニ体力テストを行い、20mシャトルランの測定を行った。全体の約7割の児童が、5月の自己記録を上回ることができた。授業の導入時での時間走や持久走大会に向けた取り組み、体育委員会主催の企画を中心に長期的に体力づくりを進めることで、一定の効果を得ることはできたが、A評価に達することはできなかった。	持久走大会の直後にミニ体力テストを行うことで、かけ足運動の効果も反映されやすいので、実施時期を変更する。また、判断基準を設定する際に、あまり難しすぎないものにならないようにする。県平均や全国平均を比べても、児童の体力は概ね良好なので、引き続き課題である心肺機能を高める取り組みを行う。
	【生活習慣の確立】 げんきっ子カードの取り組みを通して、生活習慣の確立を図る。	**保健安全・体育部**	**【満足度指標】** 「げんきっ子カード」の取り組みで、生活リズムを整えている。	げんきっ子カードで「早寝ができた」と回答した児童の割合が、 A　９０％以上 (毎日＜週に3～4回の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　６０％以上	7月12月 げんきっ子カード	B(81%) 早寝が「毎日できた」「週に3～4回はできた」と答えた児童の割合がそれぞれ32%，49%だった。げんきっこカードの結果と普段の様子から、早寝ができていない児童を把握し、個別の保健指導や保護者と連携した声かけを実施した。	次年度もげんきっこカードを継続して実施し、生活習慣をふりかえる機会を設けることで、自らの生活へ意識を向けられるようにする。また、より主体的に生活習慣を改善できるようにするために、生活習慣に関する目標を入力する項目を入れ、自己評価できるようにする。
Ⅴ 家庭・地域との連携	**【キャリア教育の推進】** 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる機会を各教科や総合的な学習の時間に設け、夢や目標をもち、地域を誇りに思える児童を育てる。	**教務部**	**【満足度指標】** 優れた芸術文化や働く人の生き方にふれる特設授業や各教科におけるＧＴとの授業、地域の方とのふれ合い、地域のよさを知る機会を通して児童が学びを深め夢や目標をもっている。	町の先生との学習や地域についての学習・活動に興味をもって取り組んでいるという児童の割合が、 A　９５％以上 (あてはまる＜どちらか の場合はB) B　８５％以上 C　７５％以上 D　７５％未満	7月12月 児童アンケート	B（90．5%） 年間を通じて生活科や総合的な時間の学習、社会科の授業においてGTをむかえた学習活動が各学年で行われた。2学期は、150周年記念式典や巡回講演等、地域の方や優れた芸術文化に触れる機会があった。さらに、クラブ活動における地域の方とのふれあいもあり、児童は活動に興味をもって取り組むことができた。GTを招いてキャリア教育の視点を含めた内容の授業実践も行うことができた。	計画的にどの学年もGTを招いた学習活動に取り組むことができているので、次年度も、年度初めにまちの先生リストの情報共有を行い、計画的に取り組んでいけるよう働きかけていきたい。また、教師間でキャリア教育の視点を入れた様々な学習活動についての情報交流を行い、地域の人やGTを招いた学習活動を積極的に行っていきたい。
	【社会性の育成】 社会性を身につけた児童を地域ぐるみで育成するため、あいさつを重点に、家庭・地域との連携を図り、身近な人に進んで明るいあいさつができる児童を育てる。	**生徒指導部**	**【満足度指標】** 家庭・地域や学校で、児童は進んであいさつができている。	進んであいさつをしていると回答した児童の割合が、 A　９０％以上 (あてはまる＜どちらか の場合はB) B　８０％以上 C　７０％以上 D　７０％未満	7月12月 児童アンケート	A(95.6%) 教師が、朝や帰りに玄関に立ち、児童の顔を見てあいさつをすると、あいさつを返す子が増えた。また、あいさつができるように、「〇〇さんおはようございます」などと名前を呼ぶことも効果的だった。	あいさつをされると返す児童が増えたが、自分から進んであいさつをする児童が少ない。自分からあいさつができるようになるための取組を児童企画委員会とも考え、実行に移していきたい。